

農山漁村地域整備計画評価調書

計画の概要	計画の名称	石川の未来につなぐ森づくり整備計画
	計画策定主体	石川県
	対象市町村	金沢市、七尾市、小松市、輪島市、珠洲市、加賀市、羽咋市、かほく市、白山市、能美市、内灘町、津幡町、志賀町、宝達志水町、中能登町、穴水町、能登町
	計画期間	平成22年度～平成26年度(5年間)
	計画の目標	<p>本県の森林は、能登地域では半島中北部の比較的緩傾斜な低山性山地、加賀地域では、白山を最高峰として広がる比較的急峻な山地に広く分布し、その面積は287千haで、県土の69%を占めている。</p> <p>民有林のおよそ4割を占める約100千haの人工林は、10齢級をピークに著しく偏った林齢構成となっており、人工林の成熟化が進んでいる。しかし、林業採算性の悪化や境界が不明確などの理由により、適切な森林整備が行われなくなってきており、手入れ不足林の増加等により森林の多面的な機能が失われることが危惧されている。</p> <p>このため、本整備計画では、県の基本計画である「森林・林業・木材産業振興ビジョン」に即し、林道等の路網整備をすすめ、間伐等の森林整備を計画的に実施することにより、木材生産と公益的機能の発揮を両立させた未来につなげる森林の姿を目指す。</p>
	評価指標	間伐材生産量 現状値(H20)50千m ³ /年から目標値(H27)60千m ³ /年まで増加させる。
対象事業	森林整備事業	
全体事業費	5,321,539千円	

項目	評価細目	評価	説明欄
目標の妥当性	1 関連する計画との整合性が図られているか	○	間伐材生産量については、「森林・林業・木材産業振興ビジョン」に即した数値目標としている。
	2 地域の課題に適切に対応する目標となっているか	○	林業採算性の悪化や境界の不明確化等による森林所有者の関心の低下などの地域の課題を踏まえた目標となっている。
整備計画の効果・効率性	1 整備計画の目標と定量的指標の整合性がとれているか	○	施業の集約化と路網の整備を進め、計画的に間伐等を実施することは、利用間伐を促進させ、間伐材生産量を増加する定量的指標と整合している。
	2 事後評価ができる適切な指標となっているか	○	事業期間終了後又は交付期間最終年度中に成果目標の目標値の実現状況について事後評価を行うことができる指標となっている。
	3 構成事業の実施による効果を評価するための指標として適切なものとなっているか	○	林道等の路網整備をすすめ、間伐等の森林整備を計画的に実施することにより、公益的機能を発揮しつつ木材生産の増加が図られる。
整備計画の実現可能性	1 円滑な事業執行の環境が整っているか	○	各事業の実施計画及び各市町との連携等実施体制が整っている。
	2 地元の機運が醸成されているか	○	市町村森林整備計画と整合が図られており、地元の機運も醸成されてい
評価結果	<p>○ 評価Ⅰ 事業を実施</p> <p>○ 評価Ⅱ 計画の見直し</p>		<p>[評価基準]</p> <p>「評価Ⅰ」は全項目に○印がついている</p> <p>「評価Ⅱ」は1項目でも×印がついている</p>